

入門マクロ経済学 I

科目ナンバリング ECT-103
選択 2単位

落合 宏

1. 授業の概要(ねらい)

例えば、自分の住んでいる経済について、景気が良いとか悪いといった評価で語られることを耳にしたことがあると思います。また、世界には著しく経済が成長している国もあればそうでない国もあります。このように景気が良くなったり悪くなったり、国によって経済成長に差が生まれてくるのは何故でしょう。景気ですとか経済成長という経済現象は一国全体の経済活動の集計量を扱っているわけですが、このような集計量の時間を通じた変動を解明する経済学の分野がマクロ経済学です。本講義ではマクロ経済学の学習を通して上記のような問題を考える上での基本的な分析枠組みを修得することを目的としています。

またマクロ経済学で扱うGDP、インフレ(あるいはデフレ)、失業等は経済学の専門書籍や政府が公表する文書だけではなく、メディアでも頻繁に取り上げ論じられています。これらの概念の理解は、将来、みなさんが就職して社会人生活を送る上でも、大きな助けとなってくれるはずです。

2. 授業の到達目標

- ①GDPや物価、失業等、マクロ経済変数の意味を正確に理解するとともに、家計、企業、政府等の経済主体の役割や働きを経済学的に説明できます。(汎用的技能)
- ②マクロ経済諸変数がどのようなメカニズムで変動するのか、マクロ経済学の基本的な理論を理解説明できます。(知識・理解)
- ③日本の財政・金融政策とその実態を説明できます。(汎用的技能)

3. 成績評価の方法および基準

- ・期中レポート課題(到達目標①、②、③):50%
- ・期末レポート課題(到達目標①、②、③):50%

4. 教科書・参考文献

教科書

特に指定しません。

参考文献

グレゴリー・マンキュー 『経済学Ⅱ マクロ編』(第4版) 東洋経済新報社 2019年

齊藤誠、岩本康志、太田聰一、柴田章久 『新版 マクロ経済学』 有斐閣 2016年

5. 準備学習の内容

予習は各回の授業内容を参考に参考文献で該当箇所を読み、予め疑問点を整理しておくことが望ましいです。復習は授業中に出题された例題を通して理解が浅いと判断した部分を重点的に学習すると効率的です。

6. その他履修上の注意事項

・マクロ経済学はミクロ経済学で学習する内容(例えば、市場均衡分析)とも深く関わってきます。したがって、入門ミクロ経済学の授業を履修するなどしてミクロ経済学の知識を習得しておくことが望ましいです。

・経済学は数学や図を使用することが多いです。計算問題を解く際はもちろんのこと、授業で使用した資料を読む際にも実際に自分で紙に計算を書き、図を描き、論旨を確かめながら読み進めてください。

・現実経済に対する深い問題意識があって初めて経済理論の学習が意味を持てます。したがって、日ごろから新聞を読むなどして時事問題には関心に向けておいてください。

7. 授業内容

- 【第1回】 講義ガイダンス
- 【第2回】 国民経済計算の基礎:国内総生産(GDP)の測定と構成要素
- 【第3回】 国民経済計算の基礎:名目、実質GDPと生計費の測定
- 【第4回】 貯蓄と投資、乗数効果
- 【第5回】 ファイナンスの基礎知識
- 【第6回】 失業:失業の識別、職探し
- 【第7回】 失業:最低賃金、労働組合、効率賃金
- 【第8回】 動画視聴
- 【第9回】 貨幣と中央銀行:貨幣と中央銀行制度、中央銀行による資金供給メカニズム
- 【第10回】 貨幣とインフレーション:貨幣市場の均衡、貨幣数量説
- 【第11回】 貨幣とインフレーション:インフレーションがもたらすコスト
- 【第12回】 貨幣とインフレーション:貨幣の中立性
- 【第13回】 貨幣と中央銀行:日本の金融政策運営
- 【第14回】 デフレーション
- 【第15回】 (オンライン)物価変動と経済変動